

平成 23 年度 第 5 回佐鳴湖ワーキンググループ会議 議事要旨

日 時： 平成 24 年 3 月 24 日（土）
9：30～12：00

場 所： 佐鳴湖公園北岸管理棟

出席者： グループメンバー11名
事務局 8名

1 開会

● あいさつ（事務局）

- ・ 本日は年度末のお忙しい中ご参加いただきお礼を申し上げたい。丁度富塚自治会で植えていただいた寒緋桜が見頃を迎えている。今日は、21日に開催した地域協議会において、皆様に議論いただいた提案事項を報告させていただいたことや、来年度以降の体制について検討していただくので、よろしく願いしたい。

2 自己紹介

● 各自、一言ずつ自己紹介（初参加者）

3 ワーキンググループの活動経緯（事務局）

● 資料1により、これまでのワーキンググループ会議の振り返りを行った。

4 地域協議会の報告（事務局）

● 資料2, 3, 4により、現在の地域協議会とワーキンググループの位置づけ、専門委員会の提言、今後の方針や組織体制案について説明した。

【意見・質問】

- ・ 平成24～26年度は、ルネッサンスⅡをさらに充実するステージということか。（メンバー）
- ・ 3年間じっくり地元の皆様と議論し、清流ルネッサンスⅡを包括するかたちで次期行動計画を策定する。しかし、3年を待たずに合意形成できた場合、平成27年度にこだわらず、次期行動計画に移行していくという方針である。（事務局）
- ・ ワーキンググループに行政がプラスして参加するということか。（メンバー）
- ・ これまでは、浜松市と土木事務所が聞き役になってしまっていた。今後は、佐鳴湖浄化プロジェクトで調整し、行政の関係部局がワーキンググループに参加することで、現場で話をしたいということである。（事務局）
- ・ ワーキンググループでは、地域の皆様の自由なご意見を上げて頂き、この一覧表が出来上がった。これからいよいよ、行政と皆様とで顔とつきあわせて実現性や課題等を議論しなければならない。（事務局）
- ・ それは確かにそう思う。ここだけで話をしても何も進まない。（メンバー）
- ・ 前回、メンバー先生から、一元化した「佐鳴湖課」といったご提案をいただいた。課ではないが、市の既存のプロジェクト会議に県が加わり、一堂に会して

議論する場として了承を得たところである。これまでは幹事会という組織だったが、そこには参加していなかった組織にも環境保全課から声を掛け、ワーキンググループで議論していくことを考えている。(事務局)

- ・ 概ね理解できた。資料①の優先度に◎がついていることは、すべてやりたいことである。私達は分担して3つの部会に参加し、実施することを決める。それを、市や県の受け皿である佐鳴湖浄化プロジェクトに持って行って、推進する窓口を決めて予算化し、人が足りなければ市民が参加するということがよいか。(メンバー)
- ・ 作業部会の検討を持ち帰って佐鳴湖浄化プロジェクトで検討するというのではなく、佐鳴湖浄化プロジェクトは行政間の調整のみで、作業部会で直接市民の皆様と関連部局が検討するということである。(事務局)
- ・ 私が進めているシジミのことは、将来的には環境保全課だけでは無理があり、水産担当も関連がある。受け皿がこうなるというところまで調整していただかなければならない。(メンバー)
- ・ どの部局が中心になって担当するかということは、佐鳴湖浄化プロジェクトで話し合う。その担当課が作業部会に参加して議論する。(事務局)
- ・ お互いに受け皿を譲り合ってしまうので、そこが大事である。(メンバー)
- ・ 参加する担当課を調整するのが、佐鳴湖浄化プロジェクトの大きな役割である。(事務局)
- ・ 作業部会は内容に合わせてつくるのか。(メンバー)
- ・ 現在は、3つの作業部会を考えている。(事務局)
- ・ 先日の地域協議会で、水質浄化に関して上流と下流の問題があり、資料には下流の堀留川と神田川から汚濁が逆流するということがあった。たまたま神久呂地区の連合自治会長と話したところ、神田川の水質が悪いと言われるが、下水道整備が遅れているからであり、地域協議会に出てきても、そのことを誰に言ったらよいかかわからないとおっしゃっていた。そのような声を聞いて行政が動くような、具体的な解決に結び付くものでありたいと強く感じた。(メンバー)
- ・ そういうことをやりたいということである。(メンバー)
- ・ その方に、ワーキンググループに入っていただいていたのではどうか。(メンバー)
- ・ 本来は地域協議会の代表者であるが、地域協議会のどこで発言すべきかわからないとおっしゃっていたので、これは大事なことだと思う。(メンバー)
- ・ ジェットストリーマーを例に上げると、我々は反対したが、市長が予算をつけ、全体の総意として実施し、成果は上がらなかった。この流れは、非常に反省しなければならない。市と県と市民が、任意の時間、タイミングに集まって部会を開かなければ、市長の指定に負けてしまう。長野県の阿智村は、その制度を作っている。村長が経験等に関わらず地域の担当者を決め、地域の要望を聞いている。市長の意見に関係なく、部長が作業部会の意見を聞く雅量がなければならない。課長または主任が、部長に対峙できるお墨付きがなければいけない。(メンバー)
- ・ 阿智村は、担当者が村長に意見することができるのか。(メンバー)
- ・ その通りである。池田町も、課長クラスがこういう場に参加している。作業部会に出てくる人が、アイデアを出し、汗をかく。その人達が積みあがる仕組みでなければならない。(メンバー)
- ・ 一言で言えば、市民協働ということである。(メンバー)

- ・ 私は行政の組織はよくわからないが、ジェットストリーマーの事例を見ても、我々は抵抗があったが、市長が責任を持ってやるということだった。結果は最初からわかっていたことである。市民が計画を練ることは、そのような動きに対する一つの抵抗でもある。また、縦割り行政の中でバラバラにやっていると、市長の意見で変わってしまうかもしれないが、それぞれの部局の施策の中に位置づけられれば、そう簡単には変えられないと思う。(メンバー)
- ・ 11月に予算締めをして、2月に市長裁定というタイミングに合わない、1年や2年はあつという間に遅れて、ゼロスタートになってしまう。作業部会の流れを実行的にするためには、何年計画で実施するのかを峻別して提案し、リードしていかなければならない。そうすれば担当課はやりやすくなるはずであるが、実質は頭を2つ持つことになるので、複眼の姿勢を持つことに耐えて、部長クラスや市長に言ってもらわなければならない。(メンバー)
- ・ ジェットストリーマーの3千万円というお金は、どこを切り詰めたのか。それとも、内閣でいう機密費みたいなものがあるのか。逆に、本当に必要であるという市長の同意が得られれば、それぐらいのお金があるということか。(メンバー)
- ・ 協議会は150万という別枠予算を取った。市には予備費がある。部会で合意する仕組みを取れば、全てやっていくことはできる。(メンバー)
- ・ 私は、市長の個人的な意向でやることはおかしいと思う。だから尚更、市の政策として入れ込むことが必要だと思う。(メンバー)
- ・ もちろんその通りである。池田町は、70億の予算の1%を提案する組織に割り付けている。将来は10%を目指している。残念ながら、市長の徳増氏は辞職して大阪市長選に立候補してしまったが、平成23年で1億2千万ぐらいになっているはずである。浜松市にも、予算を配分する仕組みが必要だと思う。(メンバー)
- ・ 池田町では、議会で議決されているのか。(メンバー)
- ・ 市長の公約で当選したので、議会で決まっている。(メンバー)
- ・ 組織の使い方の重みは、やっている人の思い入れの問題で、あのようなことをやってはいけないことを合意していれば出来ると思う。(メンバー)
- ・ おっしゃるとおりである。作業部会の位置づけがこれまで中途半端だったので、協議会の中に位置付けたという点は大きいと思う。(事務局)
- ・ 個人的には、佐鳴湖の浄化問題を、政治的な問題にしたくない。これは21世紀の重要な課題であり、皆で効率的にやっていくためには、担当部局に入っただけ、我々の要望、例えば公園内の整備についても車道と歩道をしっかり分けるということを施策に位置づける、そういうことをやりたい。(メンバー)
- ・ 今まで我々だけで話していたが、関係者も一緒に話をし、予算化できるものはしていただいて、自分達でやれることはやればいい。(メンバー)
- ・ 雨水浸透ますの先進地の事例を言うと、三鷹市の設置目標の数値は、20年計画で決まっている。そのように予算に入れ込んでいかないと意味がない。(メンバー)
- ・ 佐鳴湖浄化プロジェクトの浜松市15部署には、動物園や博物館の担当課にも入っていただきたい。(メンバー)
- ・ それはこれから決めていくことである。(メンバー)
- ・ 浜松市15部署と書いてあるが、これで決定ではなく、必要に応じて入ってい

ただくという意味である。(事務局)

- ・ 組織の大枠としては、これでよいか。また進めていく中で、不具合も出ると思うので、柔軟に対応していきたい。いただいたご意見は、次回協議会に報告させていただきます。(事務局)
- ・ かつての環境が頭にあるため、水質・水量の部会に属し、湧水を増やしたい。雨水浸透ますの目標を作って、新築する住宅は設置を義務化したい。(メンバー)
- ・ 三鷹市は、その仕組みを運営して20年になる。(メンバー)
- ・ 雨水浸透ますは、上流を重点的にと思うが、全市でもやるべきである。(メンバー)
- ・ 以前は根川という川があったが、消えてしまった。また、佐鳴湖だけでなく、下の方の田んぼにも湧き水がたくさんあった。泳いで湖心に行くと、本当に冷たかった。最終的に、水が足りなければ導水する必要があると思うが、まずは健全な水循環の構築が第一だと思う。(メンバー)
- ・ 水質・水量部会で一緒にお話できればいいと思うので、よろしくお願ひしたい。(事務局)

5 ワークショップ -今後のワーキンググループの展開について-

- 資料⑥に基づいて、メンバーの構成と選定方法、作業部会の名称について検討した。

【意見・質問】

メンバーの選定について

- ・ 先程メンバーから話があったように、三方原や高台、神久呂といった周辺の自治会に入っていたきたい。(メンバー)
- ・ 萩丘や城北といった段子川上流の連合会にも意識を持ってもらいたい。入野、佐鳴台、富塚がメインになっているのが現状であるが、トータルで考えないといけない。また、諏訪湖は企業が浄化に関わっている。企業経営者にも、仕事をさせているという意識を持っていただきたい。(メンバー)
- ・ 商工会は、そういう意味の組織ではないか。(メンバー)
- ・ 商工会で選出していただくことはできるか。(事務局)
- ・ 環境の専門部会があるので、そこから選出することは考えられる。(メンバー)
- ・ 面源対策を推進するので、自動車関係で何かないか。(メンバー)
- ・ 道路の側溝の掃除を頻繁にやるのが、今のところ考えられる。また、河川に流れ込む前の段階で、処理装置を設置する方法が考えられる。(事務局)
- ・ 入野には水防団が10個分団ある。佐鳴湖の浄化と直接関係はないが、雨水浸透ますを推進するために入ってもらった方がよい。雨水を地下に浸透させれば防水対策になるということで、沼津では防水という立場で浸透ますを設置させている。(メンバー)
- ・ 水防団は、防災を考える上でも入っていただきたい。(メンバー)
- ・ 佐鳴湖クリーン作戦でも、ボートを出して、湖面の清掃を行っている。そういう面でも関係がある。(メンバー)
- ・ いわゆるゲリラ豪雨対策である。ここで全く反対の意見を言うが、手を広げすぎて運営に苦勞することが考えられる。最も効果的なのは条例化である。条例化しないと、市民が動かない。このことは、片方で常に頭に入れておかなければ

ばならないことである。(メンバー)

- ・絶対に佐鳴湖だけの条例がほしい。(メンバー)
- ・市民からの公募についてはどうか。(事務局)
- ・佐鳴湖利用者はボート協会以外は公募に近い。公募は、これをもって何をしたいかという意識の問題があると思う。そのために、考え方を書いてもらうことはよくある。(メンバー)
- ・基本的には上流域や汚れを出している方々に参加していただきたいということと、佐鳴湖に対して熱い思いをもち、一緒に汗をかいていただける方に加わっていただきたい。(事務局)
- ・佐鳴湖はそれだけで独立しているわけではなく、自然はつながりあっている。そういう啓発が本当に大事だと思う。雨水浸透ますの話が出たが、三方原地区の植樹もやっているとよい。(メンバー)
- ・公募でA4一枚書いてくださいというと、面倒で止めてしまう。でも、書いてもらうことは必要だと思う。(メンバー)
- ・逆に書いていただける方は、それだけ意見を言っていたらと思う。(事務局)
- ・市の広報に載せてもらう手はある。(メンバー)
- ・市の広報は、今から頼むと、早くても6月5日号ぐらいになり、スタートが遅くなってしまう。(事務局)
- ・広報に掲載すると、啓発になる。県民だよりでもよい。(メンバー)
- ・佐鳴湖ネットワーク会議があった頃、佐鳴湖をジョギングしている方が2、3人、参加したいが公募はないのかとおっしゃっていた。公募をすることは、広くメンバーを求めるということになるので、私はした方がよいと思う。(メンバー)
- ・枠を決めておいて、広く公募するということでよいか。(事務局)
- ・なかなか応募してくる人はいない。先日、試みにビブレ23万部に、100年夢桜プロジェクトを掲載したが、それを見て来た方は2人であった。私は、よく2人も来たと思う。(メンバー)
- ・小・中学校の先生はどうか。(事務局)
- ・県立高校でもいいと思う。また、義務になってしまうといけなし、学校と言うよりは、教員を対象とした方が、他の学校に行っても継続していただけるのではないかと。(メンバー)
- ・この地域にお住まいの教員の方というのはどうか。(事務局)
- ・佐鳴湖をきれいにする会の立場から言うと、周辺10校に助成金を出している。その環境教育の担当者という方が、教育委員会からよりもよいと思う。(メンバー)
- ・行政と同じで、3年で変わってしまい、引継ぎが上手く行われなくて途切れることが、佐鳴湖ネットワーク会議の時もよくあった。志のある先生は、学校が変わっても継続していただいている。メンバーさんのおっしゃるように、学校単位しておきながら、変わっても一般市民として参加できる枠を設けてはどうか。(メンバー)
- ・どの学校にも、環境教育の担当がいるのか。(メンバー)
- ・ほとんどの学校にいる。総合学習では、多くの学校が環境学習を第一に行っている。(メンバー)

- ・ 教育という視点は大事だと思うので、メンバーさんのお知恵をお借りして、1、2人は加えるかたちで考えたい。(事務局)
- ・ 上限30名ということは、30名でワーキングを開く場合もあるのか。(メンバー)
- ・ 進め方の中で、基本的には3つの部会に分かれて進めていくが、発表会というか、一堂に会して情報共有する場も必要ではないかと考えている。(事務局)
- ・ 2時間やったら、30分はそれが必要だと思う。(メンバー)
- ・ 例えば、1つの部会に属した場合、全て関わりがある訳であるから、聞くことはできるか。(メンバー)
- ・ そのつど総合部会で共有しあうべきである。(メンバー)
- ・ 必ず1つではなく、2つ3つと重複して参加いただくこともできる。(事務局)
- ・ 部会毎に別の日に開催するのか。(メンバー)
- ・ 別の日か、同じ日に時間をずらすか、日程については今後検討したい。過度の負担にならないようにしたい。(事務局)
- ・ 県の関係では、部会毎に違う日に開催し、半年に1回ぐらいは全体で開催している。掛け持ちの人もいるが、2時間集中して検討でき、一旦必ず発表し、質問があれば意見を出す。そうすると建設的な意見が出ると思う。(メンバー)
- ・ 例えばエコファーマーはどの部会に入るか。(メンバー)
- ・ 部会の内容を具体的に決めていただかないと、どの部会に入るか決められないので、まずそれが先だと思う。(メンバー)
- ・ 推薦はどうか。(メンバー)
- ・ 推薦はあって良いと思う。それでは、上流域の自治会、企業、広報等による公募、水防団、学校関係者、推薦という方法で今後メンバーを加えていく。(事務局)
- ・ 作業部会とは関係ないが、一般的な話だけではなく、佐鳴湖をフィールドとして研究されている方の知見が大切であると思うので、専門委員の中に追加していただきたい。(メンバー)
- ・ 個人的には、常日頃から思っていた。戸田先生、事務局野先生のように、地元で研究されていて佐鳴湖に詳しい方に現場の実情をお話いただけると、もっと議論が進むと思うので、ぜひ検討したい。(事務局)
- ・ 文化芸術大学にはそういった先生はいらっしゃらないのか。(メンバー)
- ・ 公園等の専門はいるが、水質を専門にしている人はいない。(メンバー)
- ・ 先日、静岡大学のシンポジウムに参加したが、藻の発生の話があった。(メンバー)
- ・ 県立大学の谷先生は、毎年夏研究にいらっしゃる。(メンバー)
- ・ 理工科大学の学生が、水質の調査をしている。(メンバー)
- ・ いずれにしても、佐鳴湖をフィールドにしていないと意味がない。天野先生は、全国のデータを集めている方なので、続けていただきたい。(メンバー)
- ・ 専門委員会の先生については、持ち帰らせていただきたい。メンバーについては、事務局でまとめ、郵送等でご報告したい。(事務局)

ネーミングについて

- ・ ワーキングというのは、働かされているという印象がある。(メンバー)
- ・ 大学ではワーキンググループという言葉は使うのか。(メンバー)
- ・ 使う。次の計画を策定するための作業部会という意味である。(メンバー)

- ・ クリエイティブとか、イノベーションとか、先に進むような意欲がないといけないと思う。(メンバー)
- ・ 私は、佐鳴湖みらい会議のような、やさしくてわかりやすいものがあると思う。(メンバー)
- ・ 私は育むがいいと思う。(メンバー)
- ・ では佐鳴湖みらいを育む会はどうでしょうか。(メンバー)
- ・ 会議ではなく、何とかの会が良いと思われる。(事務局)
- ・ 以前福岡市に住んでいた時、大濠公園も水質で大変困っていたが、現在は環境が良くなっている。水質の状態は全く違うかもしれないが、参考になると思うので、視察されてはいかがかと思う。ネーミングは思い浮かばないが、佐鳴湖浄化にしても、周りの環境にしても、税金は目に見えたところに使っていただきたいと思う。いつもウォーキングすると、佐鳴台の方で異臭がするので、水質が良くなるといいと思う。私は転居する予定であるが、また浜松に来た時に、もっと良い佐鳴湖になっていけばと思う。(メンバー)
- ・ そのようなご意見を今後ともいただけるとありがたい。(事務局)
- ・ これまでの意見は、みらい会議や佐鳴湖のみらいを育む会といった意見が中心となっている。(事務局)
- ・ 私はどちらでもいいと思う。(メンバー)
- ・ 2つを合わせて、佐鳴湖のみらいを育む会はどうか。(事務局)
- ・ 横文字にするよりも、誰が見てもわかるので良いと思う。(メンバー)
- ・ 子供が参加する部会があってもいいのではないか。(メンバー)
- ・ せせらぎ水路を作る際には、子供達の参加があった。(メンバー)
- ・ それでは、会の名前は「佐鳴湖のみらいを育む会」、部会については、このまま部会という名称でよいか。では、こういう形で決定したということで、皆様に後日ご報告させていただく。(事務局)

6 その他

- 資料⑤を用いて、アンケート結果について説明した。

【意見・質問】

- ・ 県の広報もあるので、多くの市民の目に見えるようにしてほしい。(メンバー)
- ・ ホームページでの公開など、データを公開してPRしていきたい。(事務局)
- ・ 浜松市には、自然遺産的な条例はあるか。椎ノ木谷や佐鳴湖、三方原地区のオオタカの森など、そのような視点での啓発活動は考えられないか。(メンバー)
- ・ 景勝地という形で、文化財保護条例はある。(メンバー)
- ・ 環境としてはない。自然公園法はなかなか適用されない。浜名湖の条例はあるが、佐鳴湖としての条例をつくるのは今後の目標であると思う。(メンバー)
- ・ 次の会議は、協議会が終わってからか。(メンバー)
- ・ 協議会で規約の承認を得てからということになる。(メンバー)
- ・ 協議会は5月末をイメージしているので、その後になる。(事務局)
- ・ 平成24年度の県の予算はどうなっているか。(メンバー)
- ・ 浚渫は終わっているので、何千万単位の調査費である。(事務局)

● 佐鳴湖浄化への思い（メンバー）

構想段階から先進事例がどのようなもので、どのようになっているかを学んでおくことが重要であること、また佐鳴湖にどんな津波の影響が予想されるか、静岡大学原田先生に伺った結果について提言があった。

● 縄文学校より提言（メンバー）

細川元首相が横浜国大の宮脇先生を連れて、がれきを利用した緑の防潮堤を提案した。（三日ぐらい前の朝日新聞に記事が掲載されている）低予算で施工出来る例として提言があった。

以上

第5回佐鳴湖ワーキンググループ会議 検討まとめ

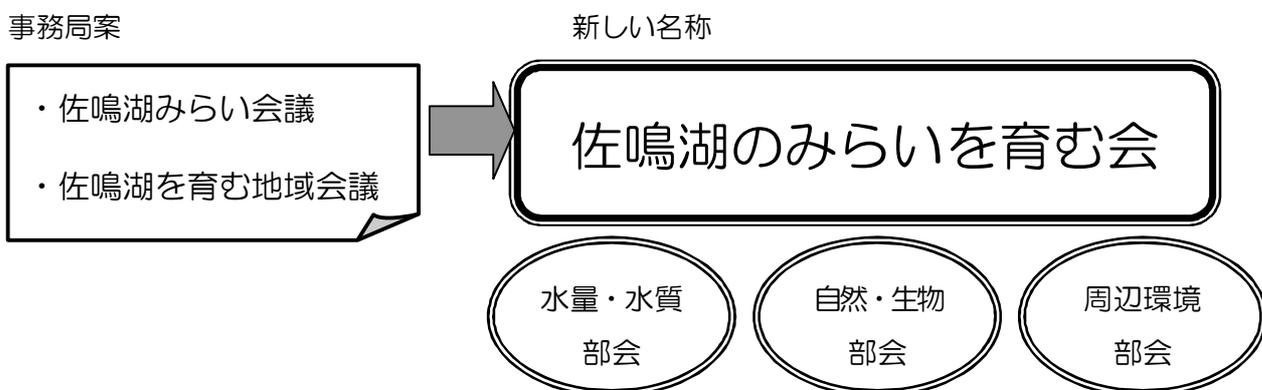
1. メンバー選定について

上限を30名程度と設定し、平成23年度にワーキンググループに参加された方に加えて、以下のような方法で追加メンバーの選定を行う。

- ① 佐鳴湖周辺の自治会
 - ・ 三方原、高台、萩丘、城北等の上流部の意識を高める。
 - ・ 神久呂等の下流部の声を聞いて、具体的な解決に結び付ける。
- ② 企業（商工会の環境部会）
 - ・ 諏訪湖は企業が浄化に関わっており、企業の意識を高める。
- ③ 水防団
 - ・ 沼津では防水という立場で雨水浸透ますの設置を推進している。防水対策としても雨水浸透ますの設置を推進する。また防災面の検討も必要である。
- ④ 学校教員
 - ・ 学校の環境教育担当者から1, 2名選出する。学校が変わっても、一般市民として参加できる枠を設ける。
- ⑤ 公募
 - ・ 広報や県民だよりに掲載することで、市民の意識を啓発する。
 - ・ 枠を決めて、広く公募する。
- ⑥ 推薦

2. ネーミングについて

作業部会の名称は、事務局案をもとに、佐鳴湖の未来を考えるという点や、誰にでもわかりやすく親しみやすいという点で、以下の名称に変更することを決定した。また、部会については、従来通り部会とすることとした。



3. 今後の活動内容（予定）

ルネⅡ終了後の佐鳴湖の中長期的な目指すべき姿や、取り組みの方向性について、関係行政部局を交えて議論を行い、取り組みを推進していく予定です。